



個性豊かに思いを表現

子ども文化祭



11月5日、市民館で、竹原市子ども文化祭が開催され、開会に併せて、竹原市学校緑化推進事業と竹ちゃん料理コンテストの表彰式が行われました。

竹原市学校緑化推進事業では、挿木によって見事な菊の花を育てた、吉名中学校が最優秀賞に選ばれました。

また、今年初めての試みである、地場産物を使用した学校給食を考える竹ちゃん料理コンテストでは、黄（主食）・赤（主菜）・緑（副菜）の部において、それぞれ3人が最優秀賞を受賞しました。

「牛たこ井」を作った盛本康平くん（忠海西小学校2年）は、「牛肉とたこが同じ色なので、ねぎを入れて色取りをよくしました。」

と、工夫した点について話してくれました。

「じゃがいもの味噌煮」を考案した前川綾香さん（賀茂川中学校3年）は、

「家にあつた食材を使って料理しました。自分たちが作った賀茂川の味噌を使って味付けしました。」と、コメント。また、「竹ちゃんサラダ」を考案した井上蓮くん（忠海西小学校2年）は、

「賞をもらえて嬉しいです。たけのこを切る時が一番苦労しました。」と、苦労した点を教えてくださいました。

表彰式終了後、市内5校の小学校が、多彩な表現力で歌や踊りなどを発表しました。児童が、真剣なまなざしで一糸懸命発表するその姿に、会場からは盛大な拍手が送られました。

毒ガス障害死没者 安らかに



10月27日、大久野島で、大久野島毒ガス障害死没者慰霊式が行われました。

この式典は、毒ガス障害死没者の御霊を弔うため、昭和60年に大久野島に慰霊碑を建立して以来開催されており、今年で26回目となります。

式典では、市長が平和宣言を読み上げ、核兵器と生物化学兵器の廃絶を強く訴えました。

また、この1年で毒ガス障害によって亡くなった人を加えた死没者名簿を奉納し、参列者全員で黙祷、献花を行いました。

多数の来賓や、毒ガス製造に従事した人、ご遺族など約180人が参列し、亡くなった人々の安らかなご冥福を祈りました。

小学生がバスを使って体験学習



11月8日、荘野小学校で、竹原市地域公共交通活性化協議会が進める公共交通利用促進事業の一環として、バスの乗り方・バリアフリー教室が開催されました。

4年生の児童が、公共交通の役割や必要性、バスの乗り方やマナー、高齢者への心くばりを学びました。また、巻き込みの原因となりやすいタイヤの内輪差の仕組みや運転席から見えにくい場所を確認し、交通安全の意識を高めました。

児童からは、「高齢者疑似体験をして、動くことが大変だと思った。」「心くばりをしないといけない。」といった感想が聞かれました。みんなでマナーを守り、気持ちよく利用できる公共交通にしていきたいでしょう。

## たけめし→たこめし→今度は たいめし！

11月2日、道の駅たけはらで、竹原タケノコ推進協議会が、新・ご当店グルメ「竹原たいめし」を発表しました。不作の影響でやむなく休止した「たけめし」のピンチヒッターとして、「たこめし」に続く第2弾として登場。旬の鯛を、ぜひご賞味ください。



## 忠海産品をどうぞ みなとオアシスただのうみ

11月6日、忠海港で、いっぺんきん祭りみなとオアシスただのうみが開催されました。鯛めしなどの忠海産品が販売されたほか、太鼓演奏や瀬戸内海クルージングなどが行われ、来場者は、瀬戸内海の味覚と風光明媚な景色を楽しみました。



## ふるさと竹原を応援！

11月9日、東京都内で、第21回東京竹原会が開催され、市役所、商工会議所などが参加し、竹原出身のみなさんとまちづくりについて意見交換を行いました。ふるさと竹原への提言や応援のメッセージをいただき、心温まる会となりました。



## 五輪代表と走る ラビットクロカン

11月13日、休暇村大久野島で、ラビットクロカンが開催され、388人が参加しました。ミュンヘン五輪代表選手<sup>うねたに</sup>の采谷義秋さんとメキシコ五輪銀メダリストの君原健二さんが参加者と共に走ると一際に大きな声援が。参加者が互いに応援する姿が印象的でした。



## 笑顔あふれる ぶちええ竹原

10月23日、バンブー公園で、ぶちええ竹原まつりが開催されました。会場では、物産展や巨大フリーマーケットなどが催され、足を止めて商品を手にとる人の姿が多く見られました。

また、野外ステージでは、市内外で活躍する様々な団体が登場。かぐやパンダは、オリジナルの体操を初披露しました。アイドルユニット「まなみのりさ」が登場すると、一緒に踊りだすファンの姿も。秋晴れの空の下、たくさんの笑顔にあふれた1日となりました。



## 演劇を通して異文化にふれる

11月7日、大乘小学校で、次代を担う子どもたちの文化芸術体験事業として、オペレッタ劇団ともしびによる演劇が行われました。

韓国・朝鮮のユーモアあふれる民話を題材として、民族楽器や踊りを取り入れた劇は、児童に驚きと感動を与えました。

また、プログラムの一部で、4年生が出演する場面もあり、民族楽器と踊りで会場を盛り上げました。

児童にとって、演劇を通して異文化にふれ、芸術文化のすばらしさを学んだ貴重な体験となりました。